

三〇〇四
3階

安全旬間宣伝に大童

病害各所に発生

ゴミを施した所に多発

巖本真理を招く

廿九日 バイオリン・リサイタル

親子二代にわたり
平消防に尽す

功績は大、惜しまれて去る井上氏

は今から十年十月館の昭和二十四年七月、前市長鈴木辰三郎氏のときだった。当時は敗戦直後のあらゆる点で荒廢した時代で今の平書の前にあつた常備消防の詰所を消防署として發足したが、井上氏は消火火器の完備と併行して水利の必要を説き三千米道路に最初五コの水をうを設けたのを手始めに現在では新市の小水槽までも入れるとやゝ五十の引退したのであるが、平消防団の一本化と共に平の火消し陣容は先ず盤石を誇るに至つ

平 館

ひかり座

五輪重量拳秋田予選へ

ローマ・オリンピック派遣選一出場する。すでに平工の川崎

ローマ・オリンピック派遣選
重賞賽最終予選会は来る六月
四、五日の両日秋田市昭和町
羽城中学校で行なわれるが、
この大会に磐高三年生の渡辺
泰行君（一八）もミッドル級に
出場する。すでに平土の川崎
武選手がバンタム級に出場す
ることになっているためこれ
で石城地方の高校からは二人
出場となった。

渡辺選手はすでに強化合宿
練習を続けているミッドル級
の渡辺選手（日通）の実弟
である。

大谷石

千三百人に減る

四月の失保金

平職安所四月の失業保険金受給者は千二百八十七人、支給金額千七百五十七百七十四円、前年同月と比べ受給者二百七十七人、金額三百八十八万四円がそれぞれ減った。

これは日本水素の離職者二百二十五人の支給が終ったため、また受給者千二百八十七人の

より二十人多かた。

色紙を送って来た。過
 市で開いた世界平和都
 に出席した際、同市の
 合の道センターの和合

皿
 灰

諸橋平市長
 このほど二
 た人物から

二十三人多かつた

しく皇太子様を始め各領、知名の士に今までも送り、英國のマーガ王女から礼状をもらつてもあるという。諸藩市傑にされて悪い気はしい風であつた。

夢の国佐渡観光と
善光寺詣り

一期 日 六月二十一日〜二十四日
 一会 員 四五名(三泊四日)
 一会 費 七千五百円
 一宿 泊 新潟・佐渡・信州戸倉温泉
 一出 発 六月二十一日朝平駅
 一帰 着 六月二十四日夕平駅
 一行 程 (汽車・船・バス併用)
 平―郡山―新潟―佐渡―直井津―戸倉―長
 野(善光寺) 篠の井―高崎―上野―平
 ◆第一日 平、郡山、新津、新潟
 ◆第二日 新潟、佐渡、佐渡見学の後(両津泊り)
 ◆第三日 佐渡、新潟、柏崎、直井津、戸倉
 (戸倉温泉泊り)
 ◆第四日 戸倉、長野、篠の井、高崎、上野、平
 ◇御参加希望の方は金壹千円を添えて御申込み下
 れる。
 ◇出発当日の昼食は各自御持参下さい
 登録三〇号

力行会觀光部

力行會觀光部

電話五五二一〇二三

特選3本立

上 映 中
日 蛇 伝
七つの弾丸
雷之丞変化

5月25日～5月31日
小ぼり・千代之介の
ふり袖小判(天)
航空サスペンスドラマ
恐怖の四時間(天)
千恵蔵の
紫頭巾(天)
映画上映中、入場者
イスクリーム進呈但
引入場者を除く)

映東夜三

大人 77円 学生 55円 小人 40円 早朝割引 55

5月25日～31日

新東寶明朗青春喜劇

爆発娘罷り通る

爆発娘が就職試験に落第！さあ大変デモ大丈夫！ゼッタイ失恋しないから！

百万巴恋合戰

伴淳三郎 高島忠夫
古川ロッパ 益田キートン
清川虹子 キドシン
堺 駿二 アチャコ
この顔ぶれが暴れ廻る
爆笑と混線の恋愛ハイ
ライト！

宝東新平

断食祈願して帰る

民主主義だつた一宮尊徳

松岡復興は最大の難關にさしかかり生涯の事業ときめてかつた金次郎も力おれ矢つきたにこの状態になつてしまひました。

辞任の願はもうろんきかれません。しかも悪いところは重なるから、任期がみちて一旦松岡から去つて、一上役の豊田正作が後任がいないために再び任命されて帰つてきたり、松岡の一村横田村には争論が起つてたちまち教えきれない問題がからなつてしまひました。

あれほど強い信念と自信あつる意志表示と実行力とに満ちあふれていた金次郎も、はじめていくらか弱氣になつたやうです。これまで決して後を

むかすひるますひたすら前進し続けて来た金次郎に一つのの轆機が来たのです。病氣と称してひきこもりじに、ことそれを見つめました。深い内省のすえに「やはり、自分が誠意に行つて来たと思つていたことがほんとうのものではなかつたのだ」

一八二九年（文政二二年）正月、突然榎町から二宮金次郎の姿が消えました。「わしは江戸に用が出来た」といふたまゝ村を出て、さて何日たつても姿を見せません。

村人たちはたちまち驚きかつ騒ぎ、なかでも金次郎を心から敬つていた人々は早速江戸へ出て来て金次郎の復興事業（これを仕法と云つていま

した。がこれまでもうに達
いて行われるように、断然に率
た東沼田や物井村の名士達
共鳴し合流してまいりました。
藩主はそういう事情を良く鑑
みることの出来入でした。
から、たちまち今迄の状態
一転し明るくなりました。
悪役豊田正作の代りに、横
周平（金次郎の良き理解者
ある。）が赴任して来ます。
明確に志を表わしたことがた
金次郎の仕入への同調者もも
分の態度をはっきりと示して
うとしていきます。つまり悪
豊田正作の登場と退場はな
ま、小田原の封建内閣の時
度でしょう。金次郎をもも
あましく小さな村の行政を先
足に行つ、誠意も熱意も実力

 溪流 絶景
 奥新坂六箇温泉
 穴原ホテル
 温泉 湯治 山荘
 南伊豆海岸
 稲取 温泉
 白雲閣
 成田山に引きこもり不動尊
 三七日の願をかけて断食修
 したというわけで、何か金
 郎が宗教にすがって行つた
 けたという事を強調し、そ
 だけの意味にしか説明して

[illegible]

スプリング式
東和シャッター

最高の戸締り・最低の価格・最後まで専任

 **久野金物店シャッター部**

平市三丁目 電 4648

★★★

二等觀

六十名

一、**會費**

二万六千七百

一、**見學**

津輕海峡、函
修道院、太
定山溪、屬
大雪山美幌峠
摩周湖、阿
十勝平野、白
登別地獄、洞

一、**宿泊地**

大沼公園、定
弟子屈、十
洞爺湖

一、**申込**

御参加御希望

十円
 館市内、五稜廓
 沼公園、札幌市内
 雲峽、大函小函
 、屈斜路湖、
 寒湖（マリモ）
 老アイヌ部落、
 爺湖、昭和新山
 山溪、層雲峽
 勝川、登別
 方は金二千万と

[illegible]

墮胎 問引きの弊風を矯正し、人口の増加を図った人々も亦少くはありませんでした前述の「近世農民生活史」の著者は、
 $\times$

陸奥瑞および桑折(こうじ)の代官であつた寺西重次郎封元 著作(なまが)の久世と備中の笠岡および武蔵久喜(むさし)の代官であつた早川八郎左衛門正紀 常陸の代官畠田泰泉、下野真岡の代官片垣三右衛門直温等の事蹟の中では、いずれも問引き

じ越前國の禁令を差しておりま
す。即ちその当初のものは、
明和四杓十月十五日出生之
子取扱儀觸御書
水野野崎守殿御渡
百姓共大勢子供有之候ハ出
生之子を産所にて而直殺候因
柄も有之段相聞不仁之至三
候
以來右禁之儀無之様村役人
は勿論百姓共も相互に心を
附可申候常陸下総辺三町春
別而右之取沙汰有之由、若
外より相願二おえてハ可為
曲事者也。

に於て、それぞれ赤子の養育を奨励いたしておりますが、當時はこれを「赤子養育主任」といっております。

白河藩の場合を、渋沢栄一著『楽翁公伝』により挙げて

當藩、白河領内には、男老幼して女子少く、且輿村一般

間引き

高萩精

物語 (5)

にそれゆゑ十年にして三
 五百余人の増加を見るに至
 實り。

× × ×

これによつて染翁松平定
 公の間計と対策の一般を察
 するにたがきるのであり

す。染翁公が、越後の領内
 に金銭を与へて女子を呼び
 とす。



十義上隨胎や間引きが行われ
 かつたからでもあります。
 その他県内各藩の間引き
 策に触れたものには、松枝
 著「会津藩の人口政策」と
 泉澤の名君であつた「本多
 善侯伝」などがあります。
 次に一個人としてこの方面
 力を注いだ者としては、「
 世崎人伝」巻之三に
 × ×
 関東のなつらひ、貧民子救多
 る者は後に産せる子を殺す
 らしめを問ひかく云ひならひ

な 多分の實をたはるゝと云ふは云えりとなへ。(由略)
 對 僧のの慈しを聞きて、吾茂の門を建てんと財施を求に、その人笑いて「吾れはのうれきを忍びぬ。故に云なり。寺の門なきは何かしら」といふまで、かくそ事の富有の者の所爲に云り。

× × ×

あ と結ぶとあるのも面白く、いいます。現在の私には、平左衛門の業績も明て定つてを言ふに、関洛等

あり 藤 思 禁 な 凡 音 愛 う 人 る 寺 或 う

道 一

※出発当日の御々
ゆゑ

※行程

第一日 平發(急)

第二日 青森、函

第三日 小樽、札

第四日 札幌、旭

泊り

第五日 美幌、美

第六日 摩周湖、

泉泊り

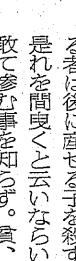
第七日 帯広、瀧

登別泊り

第八日 東室蘭、

食は各自御持参下
行北上車中泊り
館、大沼泊り
幌、定山溪泊り
川、上川、層雲峽
幌峠、弟子屈泊り
阿寒湖、十勝川温
川、岩見沢、白老
虻田、洞爺湖温泉

間引き物語
(5)



と書き、わが寺西代官の功績を大いに称揚しております。

徳川幕府は、明和四年（一七七七）に「出生の子取扱之儀御誓書」を出して、間引きを禁止し、それ以後も膠々同

十月
右之通可被相觸候
× × × ×
幕府の行つどころ、諸大名も
これに同調するなりといはれ
言を俟ちません。
遠くは、鹿兒島藩、熊本藩、
萩藩、米沢藩、新庄藩、庄内
藩、秋田藩、近くは、水戸、
白河、二本松、中村の諸藩藩

に言ひて墮落、洗足の惡習を
行せるを以て、人口は益
減少する傾向あり。公はこの
弊風は實に人倫の大本を壞
のみにあらず、土地荒廢の
因となつては國の之を嫌
正せんを印刷して頒ち、臣民
をして因果報の恐るべき事
とを教誨せしめ、或は松平

たり。また女子少き爲め、妻を娶ふに金を出す風習ありて、結婚の頗る難事なるを以て、越後の名領内の婦女子に費を以て白河に移しめられたる姫を結ばしめられたるものあり。かく力を尽きたるものあり。白河城下の時、襲討の時、民十萬一千六人なりし

せたのは、當時は聞引きの
 果として、労働力の乏しい
 子の数は男子のそれより三
 乃至二割がた少かつたのは
 来するものでありましたが、更
 は北越の地は一向宗の盛ん
 行われた地域であり、キリ
 々々宗が秘かに行われた西
 の難島方面でも、その

餓に及ぶる者すら、做いに
此の事をなせり。

て、又窺知るとは、
ませんが、大體同、時代
であつたといふことだけは
違ひないようであります。

(未完)

本稿は一応これで終ら
したまいます。

(筆者は内閣教師)

北 海

第九日 長万部、
第十日 仙台、平
登録第三〇号
力行会

國館、青森車中泊
着

平市
電話五五二一〇二三

雲觀光部
